

令和7年度 学校評価

1 評価項目の取組状況と達成状況

評価項目	結果	理由
確かな学力を育む	B	児童・保護者・職員の多くが学習理解や授業改善の取組を肯定的に評価している一方で、読書習慣や学力の定着に課題が残っていることから、概ね成果は上がったもののさらなる改善が必要であると判断した。
豊かな心を育む	B	児童・保護者・職員のいずれのアンケートでも、人間関係づくりや命を大切にする教育への肯定的回答が9割前後と高く、学校全体で心の教育が安定して機能していることが示されたため、目標を概ね達成したと判断した。
健康な心と体を育む	B	児童・保護者・職員のアンケート結果から、運動習慣の定着、防災意識、安全な学校環境づくりが概ね成果を上げていることが確認できた。特に避難訓練への真剣な取組や、体育授業・休み時間での運動機会の確保が評価され、肯定的回答も前期より向上していることから、目標を概ね達成したと判断した。
信頼される学校をつくる	B	学校の安全確保や丁寧な対応、家庭との連携が保護者アンケートで高く評価され、教職員の取組も安定していたことから、信頼される学校づくりの目標を概ね達成したと判断した。
特別支援教育の充実・推進	B	保護者からは「支援級の児童への差別が生じないように丁寧に対応してくれている」といった肯定的な声が寄せられ、職員アンケートでも「一人一人のニーズに対応した特別支援教育を推進している」が約9割の肯定を得ており、学校全体で個別支援や配慮が安定して機能していることから、目標を概ね達成したと判断した。
働き方改革の継続推進	B	職員アンケートでワークライフバランスやチームで支え合う体制への肯定的回答が9割近くを占め、教職員が協力しながら無理のない働き方を進めていることが確認できたため、目標を概ね達成したと判断した。

2 学校評価の総合的な評価

評価	理由
B	学校の重点目標は概ね達成され、挨拶や清掃など生活面の改善や人間関係の安定など多くの成果が見られた一方で、学力の定着や読書習慣など一部に課題が残ったため、総合的に「概ね期待された成果をあげた」と判断された。

※項目の評価結果の内容

S	目標を十二分に達成し、期待をはるかに上回る成果をあげた
A	目標を十分に達成し、期待された以上の成果をあげた
B	目標を概ね達成し、期待された成果をあげた
C	目標の達成が不十分であり、期待された成果に及ばなかった
D	目標を達成できず、通常の実力で得られるはずの成果が得られなかった

3 今後の取り組むべき課題

学力の定着	学力面では ICT とノート記述の効果的な使い分けを進め、児童が自分の考えを表現できる授業づくりを一層充実させる必要がある。
運動の二極化への対応	運動の二極化が進む中で、日常的に運動しない児童にも運動の楽しさを実感させる指導の工夫が求められる。

